1　事業の成果

1.1 現地での植林・生活林再生事業

IHCでは2022年度4月と6月に新規の植林地の視察と新規作物の栽培実験のためにネパールの事業地を訪問しました。コロナが収束に向かい、町にも日常がもどりつつあるものの、いまだにコロナ禍の後遺症に現地社会には混乱がありました。物価はやや上昇がみられ、とくに移動費や交通費がかなり上昇していたように思います。

◆ バランジャ村の栽培実験

バランジャ村では、2022年1月に持って行った種子を新設のハウス・ナーサリーで栽培実験をしました。現地では2月に播種したところ、6月の訪問時にはほとんどの播種が立派に芽吹いて育っていました。なかでも、はっさく（図1）と島トウガラシ（図2）はとてもよく育ち、換金作物としての可能性が感じられました。巨大なダイコンに成長する桜島大根も、大きな葉を広げていました。将来的には、より多くの種類の果樹や野菜の栽培実験を取り入れて、現地にフィットする換金作物を特定したいと考えています。

また、バランジャでは新規の植林地の選定視察を実施ました。バランジャ村にはいまだに多くの間隙地や荒れ地、土砂災害地があり、とくに木材として利用できるような有用樹の植林が望まれていました。村内で高台やドローンで栽培候補地を探していたところ、かつて10年ほど前にIHCが植林した森がすくすくと育っているところも見られました。

◆ バランジャ村での伝統のハニーハンティング

バランジャ村でのもう一つの活動として、伝統的なハニーハンティングに参加してきました。今回はドローンでハンティングの様子を空中定点撮影（図3）したほか、ハンターの頭にGoPRO Maxを装着し、3次元記録（図4）を実施しました。撮影された映像は非常に迫力があり、IHC制作のミニドキュメント映像として編集したいと思います。あいにく、訪問時期は雨が少なく、蜜源植物が少なかったことから巣からハチミツはそれほど取れませんでした。

◆ サリジャ村のナーサリーとリンゴ栽培候補地

サリジャ村では、コロナ禍の混乱のなかでも、ナーサリーで稚幼木が多数栽培されています。現地への6月の訪問では、実験用としてビワ96個、はっさく56個、枝豆92個、パッションフルーツ35個の種子を植え付け、ナーサリーで栽培実験を実施しています。サリジャ村は標高が高く、ナーサリーも2,200mを越えています。栽培できる作物が限定されていることから、おだまき、キンギョソウ、ルピナスなどの花卉の栽培実験も開始しています(図5)。加えて、村人からは高地でもよく育つリンゴ栽培の打診がありました。栽培候補地にはナーサリーの下方の段々畑（図6）が選定され、手始めに22~25本の試験栽培地にしたいと考えています。



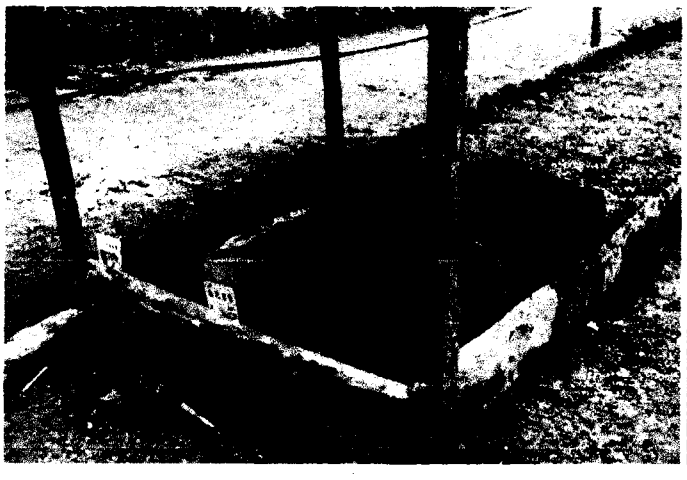


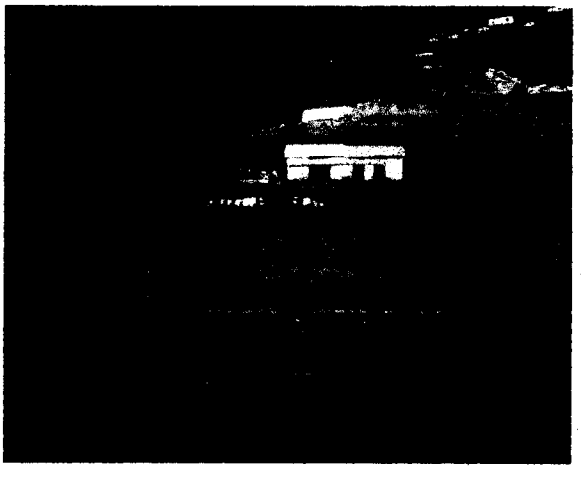
図1 青々と茂るはっさくの若芽 図2 とても良く育った島トウガラシ



図3 ハニーハンティングの空中定点撮影

図4 ハンターの頭部に装着した3次元カメラ映像





図

図5 花の実験栽培区画 図6 リンゴの試験栽培区の選定地

1.2. 新規レモン栽培による生活・収入向上アグロフォレストリー事業

バランジャ村でのレモン栽培

本会では2022年9月に、バラ ンジャ村で500株のレモ ン栽培を開始しました。[redacted]の協力を得て、およそ0.68haの水田を、レモン栽培地に転用しました。 現在、給水などの点で課題がありますが、3~4年 後の本格的な収穫を目指します。

1.3. 日本国内事業の活動報告

1.3.1. 国際交流・理解促進事業

ヒマラヤ山 岳エコロジースクールは 、事業実施にかかる旅行業者人員の手配が難航しており、　　集客面でも不安定要素があることから、ひきつづき体制を立て直して再稼働する準備を進めています。ただし、京都大学や早稲田大学には 複数名の渡航希望者がいることから、学内ゼミや研究 調査渡航として 、一部 MESS を引き継ぎながらあらたな形態のスタディツアーを模索しています。

1.3.2. 国際協力イベントへの参加・広報活動・地球市民学習事業

例年恒例となった国際協力関連団体の一大フェスティバルであるグローバルフェスタ JAPAN2022 が 2022 年 10 月 1 日（土）および 2 日（日）の 2 日間、有楽町で催され 、ヒマラヤ保全協会も参加しました。グローバルフェスタは数多くの NGO、官公庁 、 大使館などがブースを連ねる国際協力イベンで長い歴史がありますが、新型コロナウィルス感染拡大のため 、一昨年（2020 年）は中止となり、昨年は 規模を縮小したリアル会場とオンラインでの併催 となりました 。

今年は以前に比べると小規模とはいえ、昨年よりもリアル会場に力を入れた形で、私たちも 3 年ぶりのブース出展となりました。パネルによる活動の説明と、ネパール素材の小物等の販売はなか　　なかに 盛況でし た。 またオ ンライン活動説明会も催し、[redacted]に熱心に話していただきました。

コロナ禍はネパールでの現地活動にも日本国内での交流にも影を落とし、大小さまざまなコミュニケーションが分断され 、新しい出会いや会員の皆様との対面でのお話もお預けになっていましたが、ようやく日が差してきた感があります。ブースには過去に会のスタッフを務めていた方々 、会員さん 、ネパールや 国際協力に 興味を持ち情報を探している学生さん、活動パートナーを探している企業経営者といった人々が訪れてくださいました。これをきっかけとして、新しい力が会に流れ込み、新しい世界が開いていくことを願っています。

2　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業　　（事業費の総費用【　1,543　】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費（千円）
海外開発協力事業	植林事業 ・稚幼木生産・植林 ・苗畑・森林管理 ・生活林づくり ・果樹栽培 生活改善 ・栽培技術指導 ・マーケティング指導 地域の調査研究	通年	ミャグディ郡 パルパット郡	30名	事業地 2ヶ村	50,000人	1000
国際交流・理解促進事業	新型コロナのため、 イベント中止	通年			参加者 および 参加団体		
広報・地球市民学習事業	機関誌「シャングリラ」 発行（2月／8月）	通年		6名	会員		90
ネットワーキング・研究・提言事業	学会発表 研究交流	通年		3名	500人	500人	50

（2）その他の事業　　（事業費の総費用【　　】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費（千円）

活動計画書

2022年4月1日～2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 ヒマラヤ保全協会

(単位:円)

科　目	金額
Ⅰ 経常収益	
1. 受取会費	
個人会員会費	70,000
団体会員会費	60,000
2. 受取寄付金	
受取寄付金	930,212
3. 受取助成金等	
受取助成金	462,400
受取補助金	0
4. 事業収益	
自主事業収益	0
5. その他収益	
受取利息	18
為替差益	0
雑収益	
経常収益計	1,522,630
Ⅱ 経常費用	
1. 人件費	
給料手当	
福利厚生費	0
人件費計	0
2. その他経費	
現地活動・評価費	285,257
売上原価	0
旅費交通費	766,570
業務委託費	0
保険料	0
広報費	159,910
通信運搬費	45,600
消耗品費	4,300
事務用品費	6,660
図書資料費	0
諸会費	0
会議費	36,610
開発費	0
研修費	0
交際費	0
租税公課	0
支払手数料	1,680
水道光熱費	0
地代家賃	0
貸借料	0
為替差損	0
雑費	0
その他経費計	1,306,587
経常費用計	1,306,587
当期正味財産増減額	216,043
前期繰越正味財産額	5,464,186
次期繰越正味財産額	5,680,229

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会
全事業所

［税込］（単位：円）
2023年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		流動負債 計	0
普通 預金	5,680,229	負債合計	0
現金・預金 計	5,680,229	正味財産の部	
流動資産合計	5,680,229	【正味財産】	
【固定資産】		前期繰越正味財産額	5,539,165
（無形固定資産）		当期正味財産増減額	216,048
電話加入権	74,984	正味財産 計	5,755,213
無形固定資産 計	74,984	正味財産合計	5,755,213
固定資産合計	74,984		
資産合計	5,755,213	負債及び正味財産合計	5,755,213

財　産　目　録

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会　　［税込］（単位：円）

全事業所　　2023年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】			
（現金・預金）			
普通　預金	5,680,229		
みずほ銀行	(750,634)		
三菱UFJ銀行	(1,155,246)		
郵便振替貯金	(2,393,951)		
ゆうちょ銀行	(1,257,720)		
みずほ銀行（その2）	(119,570)		
その他補助	(3,108)		
現金・預金 計	5,680,229		
流動資産合計		5,680,229	
【固定資産】			
（無形固定資産）			
電話加入権	74,984		
無形固定資産　計	74,984		
固定資産合計		74,984	
資産の部　合計			5,755,213

《負債の部》

【流動負債】			
流動負債　計		0	
負債の部　合計			0
正味財産			5,755,213

2022年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人　ヒマラヤ保全協会

1　確認事項（法第２０条及び第２１条を確認の上、チェックを入れてください。）

☑以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第２０条関係）
☑各役員について、親族の規定に違反していません。（法第２１条関係）

2　役員一覧

	役　名 どちらかに○	（フリガナ） 氏　　名	[redacted]	前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間 （該当者のみに記入）
1	(理事)・監事	ソウマ　タクヤ 相馬　拓也		令和４年４月１日 ～ 令和５年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
2	(理事)・監事	クリタ　コウジ 栗田　康二		令和４年４月１日 ～ 令和５年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
3	(理事)・監事	サクママサトシ 佐久間　雅俊		令和４年４月１日 ～ 令和５年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
4	(理事)・監事	タケサコ　マミ 竹迫 真実		令和４年４月１日 ～ 令和５年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
5	(理事)・監事	フセ　タツヤ 布施　達也		令和４年４月１日 ～ 令和５年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
6	理事・(監事)	ホンダシンイチ 本田　新市		令和４年４月１日 ～ 令和５年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日

書式第４号（法第１０条・第２８条関係）

設立・事業報告用

社員名簿（社員のうち１０人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人　ヒマラヤ保全協会

	氏　　名	[redacted]
1	相馬　拓也	
2	栗田　康二	
3	布施　達彦	
4	佐久間　雅俊	
5	竹迫　真実	
6	本田 新市	
7	清田　華代	
8	渡邊　敏雄	
9	大平　篤男	
10	三輪　雅之	